

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	2070700246		
法人名	特定非営利活動法人生活支援センターオアシス		
事業所名	グループホームサン・オアシス		
所在地	長野県須坂市大字小河原1564-1 (電話) 026-242-3860		
評価機関名	コスモプランニング株式会社		
所在地	長野市松岡1-35-5		
訪問調査日	平成19年10月4日	評価確定日	平成19年11月5日

【情報提供票より】 (平成19年9月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 3月 16日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 3人, 非常勤 6人, 常勤換算 7.4人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有 (円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成19年9月20日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護 1	1	要介護 2	4
要介護 3	3	要介護 4	1
要介護 5	0	要支援 2	0
年齢	平均 87.6 歳	最低 81 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・ 旭町医院 ・ 須坂病院 ・ 最上歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの周りには様々な果樹園が広がっている。春先には白やピンクの花に囲まれ、実りの季節になると桃や梨、りんごなどを間近に見ることができ、四季の移り変わりが目の前で演じられている。ホームの敷地に1歩足を踏み入ると、バラを始め多くの草花が咲き、畑には野菜が沢山作られている。法人の「地域の皆様があつてのホーム」という考えのもとに5年目を迎えている。「継続は力なり」と言う言葉があるように、職員一同が入居者との生活を送る中で喜び・悲しみなどを共有しながら支えあっている。入居者の穏やかな表情と職員の優しさに満ちた表情から、人を愛し、花を愛し、動物を愛する姿勢が充分感じ取られるホームである。地域があつてホームがある。あなた(職員)がいるから私は安心できる。あなた(入居者)がいるから私たちは癒される。入居者と職員との固い絆が感じられ、居心地の良いホームとなっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回評価結果は運営推進会議にて報告され、理事長・管理者・職員全員で改善に取り組んでいる。ハード面・ソフト面から改善され、支援内容も充実しており、入居者が安心して住みやすい、生活の質の高いホームになりつつある。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	外部評価は今回で4回目になる。その都度全員が参加し、各々が記入することにより忘れかけていたことを反省したり、再度勉強するなど自己啓発にもつながっている。また、4回目ということで職員と評価調査員との面談がほぼ全員受けられたことも有意義と語られていた。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議発足時はグループホームの内容の理解を得ることからスタートし、ホームの生活を実際に見ていただき、防災訓練などに地域住民・区長にも参加していただいている。今後は看取りのことなどをテーマに取り上げ、地域住民への理解を広げる活動につなげていただきたい。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	家族会も作られており、行事などへの参加も積極的にされている。意見箱の設置もされているが、いまだに利用されたことはない。家族の方はホームへ来た時に職員に気軽に話が出来ているので、直接提案・感謝の言葉などをいただいている。職員も意識して家族との対話の機会を多くつくっている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	「地域の皆様があつてのホーム」という考えを職員一同が認識しており、毎夏行われているホームの「サン祭り」にはたくさんの地域の方々やボランティアの方々に参加している。果物が実ると入居者の方々に差し入れやら、果物狩りなどへの招待をいただいている。地域の公民館の歴史講座にもホームを開放している。地元の婦人会の方々によるボランティア活動も受け入れている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの理念の一つに「家庭や協力機関、地域との連携の中、心から語り助け合い、共に喜び合えるように努めます。」が盛り込まれており、実践されている。ホーム内にも掲示され、案内パンフレットにも明記されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び職員は、ホームの理念を個々の言葉で理解し、日々の生活支援の中に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学生との交流が毎年定期的に行われている。公民館主催の「歴史講座-1」のプログラムにホーム独自の参加をしている。毎夏、ホーム主催で開催されている「サン祭り」に、今年は地域住民・ボランティア・家族など延べ140名の参加があった。郵便局で、入居者・職員の手による瓢箪の作品展も開催した。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年外部評価の折には、全員が参加している。今年度も各自が自己評価をした。自己評価することで、新たな発見・初心に帰ることなど有意義に活用できている。評価結果についても運営推進会議で報告したり、職員の定例会議等で話し合っている。		

グループホーム サン・オアシス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表・区長・民生委員・市高齢課職員のメンバーで構成され回を重ねている。「グループホームとは?」からスタートし、ホームと地域との共存などに関する議題を設け意見をいただいている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム内で職員がケアについての悩みなど市の職員のアドバイスを受けている。ホームの中で少しずつ重度化が進み、看取りの必要が出た時、相談・助言をしていただいた経緯もある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月一回「サン便り」が発行されている。入居者の写真が入った便りには次回の行事への参加の呼びかけなどが書かれており、家族にとっては待ち遠しい便りとなっている。金銭管理に関してはホームへの家族の来訪時に領収書を渡してサインをいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム入り口に「意見箱」が設置されている。家族会もつくられており、家族も職員も気軽に話し合える関係作りがされている。ホームや公的機関の相談窓口についても家族に説明されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	多くの職員は開設時からの職員である。また、自己都合で退職した職員の「かたつむりの会」があり、ボランティアとして散歩・行事等に関わってもらっている。入居者にとっては顔馴染みの職員等が常に側にいるという安心感がある。		

グループホーム サン・オアシス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には年間で一回は受講するように計画している。外部研修を受けた職員は定例会議等で発表している。講師を外部より呼んでの内部勉強会も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホーム、小規模多機能施設との交流は行っている。また、ホーム同志の相互訪問も実施している。今後の交流や研修についても意欲的であった。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	運営規定の中に、『利用申し込み』の手順が書かれている。管理者が居宅に訪問したり、入居申込者・家族がホームに訪問していただいたりしている。体験入居も出来る。小規模多機能型居宅介護も今年より隣地に開設したので、デイサービスを利用しながらの関係作りも出来ると思われる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日一緒にいることが職員の生きがいとなっている。毎日の発見・ふれあいがお互いの癒しになっている。「ネコは、犬と違い甘いものは食べないんだよ・・・」、「柿をそんなふうの一つずつは運ばないんだ。枝ごと背負うんだ・・・」等、入居者の貴重なアドバイスが日誌に細かく書かれている。		

グループホーム サン・オアシス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人・家族より生活暦の聞き取りがセンター方式によりされている。また家族が訪問時にも声掛けし、より詳しく話を聞いている。ホームでの生活からも自然と分かり合える関係作りが出来ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者・家族の希望を聞き、職員をグループに分けて担当を決めている。グループごとに介護計画を出し合い討議し、それを管理者に提出し、管理者が最終的にケアプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	長期目標6ヶ月、短期目標3ヶ月を目安に見直しをしている。状態によっては、1週間、10日というように随時の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への受診、薬の処方など家族が出向けない場合は職員が代わりに付き添いを行っている。理美容に関しても、ご家族で連れて行かれる方もいるが、元職員が資格を持っているのでホームに出張してもらい整髪している。		

グループホーム サン・オアシス


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多くの入居者の方々が近隣の方なので、入居までの担当主治医の変更はあまりない。ホームも以前よりのかかりつけ医との連絡を取り合っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に家族に説明をしているが、現状では家族が終末期までのことは考えられない状態である。ホームの方針は統一されている。今年の事例では入居者・家族・医師・職員がお互いの力を結集しながら最後まで看取る事が出来た。	○	経験をもとに重度化・看取りのマニュアル作りに着手したらどうであろうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約書にもプライバシー保護のことは書かれており、入居時には説明もされている。日常生活においても職員は入居者を年上の方というとらえ方をしており、言葉遣い・対応等は優しく穏やかであった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れは決められているが、常に職員が入居者に合わせるという体制で支援している。		

グループホーム サン・オアシス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員も一緒に、3食同じものを食べている。出来る範囲で入居者に調理・配膳等のお手伝いをしてもらっている。状況に応じてみんなで「いただきます」の挨拶をして食べている。食事時間はまちまちで、ゆっくりと会話を楽しみながら食べている。季節に応じた食材で、「目からの食欲」と「食べての食欲」を意識し心のこもった料理を出している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎日の入浴を心がけている。入浴もリハビリに役立つと職員は考えている。入居者によっては1日おきを希望される方もいる。少しずつ介護度が高くなってきているので時間がかかることから、午前中の中の入浴も実施し始めた。入居者ごとにきめ細かい対応ができています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の盛り付け、テーブル拭き、草取り等、入居者の役割がある。菜園より瓢箪を収穫し、細工を施して作品に仕上げるとか、ボランティアの方々の押し花絵の制作なども楽しんでいる。入居者の方々に馴染みの歌謡曲をバックに流し、明るい雰囲気づくりもしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気の良い日は職員と共に散歩に出かけている。早朝を利用し、善光寺へ参詣に行くこともあり、本堂の中でのお参りは入居者の方々にとっても楽しみの一つとなっている。家族同伴のバスハイクなどで遠出する機会もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかける事の弊害を理解している。市主催のオープンガーデンにも参加しており、ホームの庭を見学に来る人たちのためにもホーム入り口の扉は昼間開放している。		

グループホーム サン・オアシス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年2回の避難訓練を行っている。夜間の避難訓練は具体的に夜勤者が家に居る職員へ電話し、どの位の時間でホームまで駆けつけられるか練習もした。地域の方々にも参加していただき、消火器のある場所などの説明もしてある。地域の方の誘導による入居者の移動等も実施した。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立の作成は職員4人が担当している。カロリー計算もされている。医師・看護師に指示された方の記録は詳細にされている。野菜の摂取が難しい入居者には野菜ジュースを飲んでもらうようにしている。お風呂上りにはスポーツ飲料を飲んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間全体から木のぬくもりを感じる。食堂や皆の集まる空間には吹き抜けの天井があり、その下に大きな扇風機が回り、おしゃれな山小屋風の雰囲気がある。廊下にはホームで育てた花や押し花が飾ってあり、庭で育てた瓢箪も色づけして飾ってある。細かいところにも工夫が見られ、夢のある、明るい空間づくりがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自分が使い慣れたベット等が置かれ、壁には写真等が飾ってある。また、自分で作った押し花が飾ってあり、明るい雰囲気が醸し出されていた。入居者のそれぞれの個性が感じられ、職員の支援を得ながら居心地の良さそうな居室づくりがされている。		

※  は、重点項目。